

## 社団法人京都府森と緑の公社第 1 回経営検討委員会開催結果

### 1 開催日時

平成 24 年 4 月 25 日（水曜日） 午後 4 時 00 分から 6 時 00 分まで

### 2 場所

京都ガーデンパレス「祇園」

### 3 出席者

#### 【委員】

田中座長、檜崎委員、野澤委員、長谷川委員、松下委員 （五十音順）

（欠席 中野委員）

### 4 議事

#### （1）報告事項

- ・社団法人京都府森と緑の公社の現状と課題について
- ・京都府の取り組み状況

#### （2）協議事項

- ・経営検討委員会での検討項目について
- ・将来収支見通しの考え方について

### 5 協議結果（主な意見等）

- ・当面の公社経営の目標をどこに設定するのかを明確にしておくべき。そうしないと議論のポイントや参考にすべき事例も絞り込みにくい。
- ・将来収支見通し等の資料については、当委員会の結果を府議会や府民に対して、いかに「見える化」していくかに尽きられると思われる。
- ・公社造林に関わる当事者（土地所有者や金融機関等）の意見を聞く必要がある。
- ・企業の経営改善でも、いくつかのパターンでシミュレーションを行い、比較検討している。将来の木材価格の設定も、現在価格での試算とともに、さらに厳しい条件（価格設定）で試算を行う必要がある。
- ・木材価格については、数十年先の予測は不可能だと思われるので、長期経営試算シミュレーションについては、現状のまま推移した場合、上昇した場合、下落した場合、さらに下落した場合の 4 とおりを作成する必要がある。
- ・全 277 事業地について現況調査を行っているので、その調査結果についても「見える化」し、資料としてまとめておく必要がある。
- ・現地調査が検討会の早い段階で設定されているので、机上の空論ではなく現地の状態を見て議論できる。各事業地の図面や土地所有者のデータ等詳細なデータも提供してほしい。
- ・採算林、不採算林に区分してあるが、不採算林であっても、地域の雇用を生み出したり、様々な公益的機能を果たしており、それを評価していくことも必要ではないか。

- ・今後、木材の供給量が増えれば、木材価格は下がってくることが予測される。その中で、木材価格をA材(優良材)、B材(並材)、C材(チップ材)に区分する必要がある。
- ・搬出経費及び運搬経費について、作業システムが作業道等からの距離により区分されているが、具体的なイメージがわきにくい。むしろ作業道等の規格や開設箇所、開設費用や維持管理費用を誰が負担するか等が評価に大きく関わるのではないか。
- ・採算がとれないからどうするのかという議論だけでなく、100年後の天然林の価値も見据えて経営の多様化を図っていくという発想や、林業大学校の卒業生が林業事業体へ就職し、公社の施業を担っていくなど、例えば京都モデルを創り、国へ提案しても良いのではないか。